平成23年(2011)
阿づまの光
4月号・Aprilo

五代教主作「呉須絵 梅文茶盌」

題字 出口直日

通巻　第５０５号
発行　大本東京本部
東京本部長　松田行彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL(IP) 050-5510-9502
03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
E-mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

お詫びと感謝の祈りを

東京本部宣伝部長　成尾　義

三月十一日午後二時四十六分、三陸沖を震源とする「東日本大震災」の発生により犠牲となられました御魂さまのみ救いと、安否不明の方々が一刻も早くその消息が判明されることをお祈り申し上げますと共に、被災された全ての皆さまに対し、心からお見舞い申し上げます。

地震発生後、大本本部（天恩郷）では直ちに「災害救援奉仕隊事務局」を設置。夕拝後には、教主さまをはじめ本部職員及び近隣の信徒らによるご祈願が行われました。そして同日午後八時、第一次先遣隊四人を宮城分苑に向けて派遣。石井信孝宮城分苑長、また地元信徒らと管下信徒の安否確認等を実施しました（その後十八日までに三次救援隊を派遣）。

関東教区・大本東京本部においては、各主会長を中心に安否と被災状況を確認していただき、十三日に執り行われました「東光苑月次祭」において、「東日本大震災鎮静・復興祈願祝詞」を奏上。参拝者一同、真剣な祈りが捧げられました。

また両聖地並びに東京本部では、引き続き、安否確認が取れていない方々の確認をすすめつつ、神前では職員が交代で「神言」を繰り返し奏上。一日も早い地震の鎮静と復興祈願を続けています（三月二十一日現在）。また「東日本大震災義援金（愛善基金）」の受付も開設され、国内はもとより海外からも善意が届いております。

マグニチュード9.0という日本の歴史上最大の震度と巨大津波、更に原子力発電所からの放射線物質の漏洩とそれにともなう電力不足、そして未だ続く余震と、今私たちはまさに『世の大峠』の真っ只中にいると言っても過言ではありません。

『一さいの終りと思ふ今の世は神よりほかに頼るべきなし』（出口王仁三郎聖師詠）

大本信仰をいただいている私たち信徒は、祈るすべを知らない人に代わって、平安への祈願とこれまで知らず知らずに犯してきた罪穢れに対するお詫び、生かされていることへの感謝の〝祈り〟を捧げなければなりません。そして積極的な節電や義援金への募金、物資の提供など、具体的活動として何ができるかを一人ひとりが考えて、備えていただきたいと思います。

今月の聖言

立替へを世人のことと思ふなよ
立替へするはおのが身魂ぞ

出口王仁三郎聖師

第96回「21世紀、生きがい講座」より

生活と信仰

講師 椎野恭三
（特派宣伝使）

今の自分があるのは……

私は現在（一月十九日）、関東教区の特派宣伝使として、一都八県九主会を巡回しております。

分所・支部や個人のお宅を訪問したり、時には病院に入院している方のお見舞いに伺ったりしまして、多くの方との出会いをいただいています。本当にありがたい環境だと思っています。

そのような巡回のなかで、実はここ最近、ご葬儀に続けて出向する機会がありました。

大本の葬祭式では、まずご昇天されたことを神さまとその家の祖霊さまにご奉告申し上げ、そしてお松の枝と十字に結んだ麻苧（あさお）でできた霊璽（れいじ）に故人の霊魂を鎮める招魂式という祭典を執り行います。

そして、亡くなった日から十日ごとにご家庭で祭典を行い、五十日目に、その家の祖霊さまのお宮に霊魂（みたま）移しとなる合祀祭を執り行います。そこからはその家の祖霊さまのお宮に鎮まりいただき、そして永遠に、代々とお祀りさせてもらう祭典を行うのです。

大本では、人には魂が宿っており、亡くなると同時に肉体から魂が離れると教えられていて、なるべく早く霊璽に招魂するよう指導されています。ご家庭の事情や遠方から参列されるご親戚の関係から招魂式が何日も遅れることもあり得るのですが、そうなると、その肉体から離れた霊魂が鎮まるところがない訳です。ですから早く招魂式を執り行って、霊璽に魂をお鎮めした方が良いのです。

人は霊魂が肉体に鎮まっているから、いろいろな活動ができるのです。霊魂だけでしたら活動することは出来ません。

実際葬儀にお仕えして実感したことは、お亡くなりになった方だけが、先祖ではなく、累々とご先祖がおられたから今の自分が生存しており、そしてその後もズーッと子孫が続いていくということ。ご先祖と子孫のはざまに自分が生きていることを実感します。

そして私たちに与えられた人生の中で、自分の魂を磨いて、何か一つでも向上させていただくことが務めだと思います。魂が磨かれていくことで、自分自身が向上させてもらい、それがこの現界をより天国化することになりますし、霊界もより天国化させていく働きがあるのです。

そして、大本の葬儀では「誄詞（しぬび）」という故人の経歴やご遺徳を称える祝詞があり、その最後に「〇〇の家の守護神（まもりのかみ）と鎮まりまして」と申し上げます。

確かに実際に故人の霊魂を目に見ることはできませんが、「千の風になって」という歌のように、霊魂はお墓に鎮まっているのではなく、身近なところで見守ってくれていると言えるのです。

そんなご先祖さま、祖霊さまに対する気持を大切にして、大本のご葬儀は執り行われています。

現界は天人の養成所

出口日出麿尊師は『現界は苗床である』と示されています。稲は初めから水田に種を蒔（ま）くのではなく、苗床である程度生育させてから水田に植替えられるように、現界での人生は苗床だと言われているのです。

また大本では『現界は修行の場』とも言われますが、現界はいわゆる天人の養成所で、私たちは勉強させてもらっているのです。つまり学校であり、就職して本当に活躍するのが霊界なのです。

亡くなられたら空（くう）になるとか無（む）になると説く宗派もあるそうですが、大本の死生観では魂は永遠に生き通しで、何回も生まれ変わり死に変わりしながら、成長していくのです。もしも人生一度で終わりとなったら、好きなことだけやった方が得だということになりますよね？　他人はどうなろうと関係ない。悪いことしてでもお金儲けして、死んだらそれで終わりではダメで、やはりその人の徳が、ご先祖や子孫に伝わっていきますし、自分の魂の中にしっかりと刻まれるのです。

鏡餅のように

出口直日三代教主のご教示に、『一生のうちには、どうにもならないような分厚い壁につきあたりますが、へいぜいの時でも、その人にとっては、なかなか問題になるものを抱いていられるようです。このことは、ものごとを気にする、しないとは別に、人間の背負っている宿命のようなものでしょう』という一節がございます。

人生のうちには、いろんな問題が生じます。人間関係の問題、健康の問題、金銭的な問題など様々です。順調な時だけではなく、アクシデントも発生するのです。しかし、どんな状況下にあっても、日々の生活を明るく前向きに生かさせてもらうことが、まさに日々の修行なのです。

出口すみ子二代教主のお歌に『もちになりたやきわまんまるくむされたたかれねりねられるはかがみのかみのまえ』という鏡餅をつく時の工程を人生に例えて詠まれたお歌があります。

鏡餅は、まず餅米を蒸し器で蒸されて、杵と臼で突かれ叩かれ、そしてこねられて、立派な丸々とした鏡餅ができるわけです。しかし、蒸しが足りなかったり、杵の突きが充分でないと米粒の形が残ってしまい、立派な鏡餅にはなりません。

同じように、私たちも日常生活の中で、蒸されたり、叩かれたり、練られるようなことがいっぱいあります。でもそれは、しっかりした人になるため、成長するために与えられた神さまの恩寵（おんちょう）なのです。

出口王仁三郎聖師のお歌に『人のためつくさばわが身にかえるなりたまの光は天にかがやく』というものがあります。

人のために尽くしていると自分に返ってくること。〝たまの光〟とは、魂が光輝く、つまり自分の徳になるのだと思います。お陰のいただき方の一番の秘訣としても、人のためにすることが、徳となって自分に返ってくるとだ言われています。

聖師の例え話に、次のような話があります。お風呂に入っているとき、熱いお湯が沸いてくる。そのお湯を自分の方へ自分の方へと掻き込んでも、みんな脇から逃げて行くんだと。その反対でお湯を向こうに向こうにと押し出すと、自然と心地いいお湯が風呂桶の縁を廻ってきて自分に返って来るんだと。これが、一番良いお陰のいただき方だと言われているのです。

ですから、世のため、人のために尽くすことが、巡りめぐって自分に返ってくるのです。

刹那に最善を尽くす

そして活き活きと生きるためには、やはり大本の四大主義の実践が必要です。

四大主義は、清潔、楽天、進展、統一の四つの主義です。

それぞれの主義を別の言葉で言い変えると、清潔主義は〝素直に〟楽天主義は〝明るく〟進展主義は〝前向きに〟統一主義は〝仲良く〟の言葉が当てはまるのではないかと思います。

つまり、この「素直に明るく前向きに、そして仲良く」を生活の中で実践することが、天地のリズムに乗り、自分の人生の考え方もスムーズになり、人生の諸問題も楽に乗り越えることが出来るのではないでしょうか。

皆さんはそれぞれにこの現界に生を受け、これまで何十年と歩んできた人生があります。その人生を振り返ってみると、そこには自分が歩んできた道があります。大きな岐路、小さな岐路、いろんなものを選択して生きています。しかしその道は、誰かの道ではなく自分の道であって、それが自分の天命なのだと受け入れることが大事なことなのです。

ここで一番大切なことは、順調な時は、誰でもありがたく、嬉しく受け入れることができるのですが、病気や事故といった問題を抱えた時にもこれが天命であると受け入れることができるかなのです。大きな試練であっても、それを素直に前向きに受け入れることが大切なのです。

『あともとめず果てしも知らずゆく水のこのうつそ身は面白きかな』とは尊師のお歌ですが、川の水はズーッと流れていきますが、その水は自分が通ったあとを求めずに、そのまま流れていくという歌です。

人生の全てを成るがままに任せること、その時その時を、刹那刹那に最善を尽くすことが大切ですし、最後は一切を「惟神霊幸倍ませ」と、神さまの御心にお任せすること、神さまの掌（たなごころ）の中に生かさせていただいているのだということが肝心です。

活き活きと生きる

最後に聖師の歌『神に生きまた恋に生き花に生き希望に生きて百年生きむ』というお歌を紹介します。

私見ですが『神に生きる』というのは、信仰に生きるということだと思います。大本の神さまだけではなくて、キリスト教、イスラム、仏教などいろんな信仰がありますが、信仰に生きること。社会にはそれぞれの信仰で、手を合わせて祈っておられる人がたくさんおられます。日本人は無信仰の人が多いとか言われますが、それでも、信仰され熱心に祈っている人はたくさんおられるのです。

また『恋に生き』は、男女の恋愛だけでなく、憧れもそうだと思います。韓流、ジャニーズ、綾小路きみまろなど、いろんな人を追っかけている人たちもおられますし、野球ファンやサッカーファンなど、一様に活き活きとされています。こういった憧れも活き活きと生きる要素ではないでしょうか。

次に『花に生き』とは、趣味に生きる。花が本当に好きな人もいれば、茶道や写真、山登り、読書、家庭菜園、陶芸、書道、いろんな趣味がありますが、趣味が人生という人がおられます。例えば九州のある信徒の方で、写真好きな人がおられまして、その人の自宅にはご自身で撮られた写真がたくさん飾られていました。ある時、巡回で伺ったとき丹頂鶴の写真が飾られていました。なんと二月の一番寒い時に北海道に行って来られて、「丹頂鶴は飛び立とうと羽ばたいている姿が一番魅力的なんです」とおっしゃって、その瞬間を撮影するために何時間も構えておられたそうです。大変な苦労だなと伺っていますと、それが全く苦にならない、好きで好きで仕方ないのだそうです。

そして『希望に生きて百年生きむ』と。現代なら百歳を超える人は、たくさんおられますが、このお歌が作られた大正のころに百歳まで生きるのは、相当、先の話みたいですが、やはりそういう希望を持って活き活きと生きることが大事なのだと。

実は、この道歌を紹介していますと、三代教主のことが思い出されるのです。それは、私がまだ十九歳くらいで大本の教育機関であります梅松塾の塾生だったころ、三代教主の公館である梅松館に、毎朝玉の井という井戸の水を、タンクに汲んで、塾生が交代でお届けし、続いて朝のお掃除をさせていただくお役があったのです。

ある時、廊下を掃除していますと、三代教主のお部屋から、英語のテープが聞こえてくるのです。当時七十歳を超えておられた三代教主が、英語を勉強されておられたのです。それは、ニューヨーク聖ヨハネ大聖堂のモートン聖堂長が大本にご来苑になるので『モートン神父と英語で話がしたい』とおっしゃって、英語の勉強をなさっておられたのです。アメリカからお見えになられたお客様に、英語でお話をしたいという、そのお気持ちを拝察させていただくと、人生に何か希望を持つこと、目標を持つことがいかに大切かを感じます。

魂を磨くということも踏まえて、活き活きと生きることが、自分の与えられた天命を光輝き、喜びのある人生にさせていただけるのではないでしょうか。

皆さんもしっかり前を向いて、日々の生活を活き活きと生きましょう。

教本3級認定講習会

東京本部で初開催の「教本三級認定講習会」が、二月二十六・二十七日の両日に開催され、のべ五十人が参加した。

「実践リーダー教本『初級編』」をテキストに「大本とは」から「聖地の祭り」までの九項目を全員で音読学習。最後に筆記問題と対話実習形式の〝理解度チェック〟に取り組んだ。

ペアになって対話実習

参加者からは「自分の言葉でみ教えを伝えることの難しさを実感した。やはり実践を通じて経験を積んでいくことが大切だと思うし、教義をしっかり勉強しなければいけないと思った」（五十歳代・男性）などの声が寄せられた。

大本基本講座開催のご案内

本年も「東光苑・大道場基本講座」を下記の要項で開催いたします。定員が４０人となっておりますので、お早めの申し込みをおすすめいたします。

日　程　前半：５月２８日（土）２９（日）
後半：６月２５日（土）２６（日）

参加費　食事・宿泊代：１泊３食１，８５０円
資料代：５００円（お持ちでない方のみ）

持ち物　筆記用具、着替え、洗面具

定　員　４０人

締　切　５月２１日　※定員になり次第締め切ります

申し込み　大本東京本部　宣伝部（担当：成尾）

プログラム

5月28日（土）		6月25日（土）	
13：00	受付・開講式	13：30	開会
14：00	「大本の出現」	14：00	「霊界の実在」
17：00	夕拝・夕食	17：00	夕拝・夕食
18：30	「救世の神業」	18：30	「四大綱領」
21：00	入浴・就寝	21：00	入浴・就寝
5月29日（日）		**6月26日（日）**	
8：00	「歴代教主の神業」	8：00	「四大主義」
10：30	「祝詞の意味」	10：30	「現代の大本」
12：00	昼食・休憩	12：30	昼食・休憩
13：00	「神と人」	13：30	歓ぎの座
15：00	閉会	15：00	閉講式

●離任あいさつ　椎野恭三（しいのきょうぞう）（特派宣伝使）

二月二十一日付の人事異動にともない、北海教区の特派になりました。平成十三年十一月十九日付で東京本部に着任してから九年目を迎えておりましたが、その間、関東教区の皆さまには特派活動や諸行事等で大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。皆さまにはお体ご自愛下さり益々ご活躍賜りますよう、お祈り申し上げます。

●着任あいさつ　松家　泉（まつか いずみ）（特派宣伝使）

二年五ヵ月ぶりに関東に帰ってまいりました。以前はお宮をお守りする祭務のご用でしたが、このたびは教区の皆さまの元に馳せ参じる特派宣伝使としてお世話になります。開教一二〇年記念事業の先駆けである東京本部ご造営時の初心にかえって、お仕えしたく念じております。相変わりましてよろしくお願い致します。

東光苑月次祭

三月の東光苑月次祭、交通安全祈願祭、関東教区春季合同慰霊祭は三月十三日、午前十時三十分から、斎主・森良秀東京本部次長のもと執行され、三二十人が参拝した。

祭員は関東教区各種会青松会員、少年少女祭員は山梨主会の小池翔音くん、東京主会の吉田英里香さん、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は飯田俊明茨城主会長、添釜は中村社中の皆さんが担当した。

祭典では、斎主が月次祭祝詞、交通安全祈願祝詞に続いて、東日本大震災鎮静・復興祈願祝詞を奏上した。

祭典後、松田行彦本部長があいさつ。次いで人事異動報告（椎野恭三氏が北海教区特派宣伝使として、松家泉氏が関東教区特派宣伝使として異動）が行われた。

東光苑祭典・行事予定

4月（クリーン月間）

東光苑春季大祭
10日（日）午前10時半

第98回「21世紀、生きがい講座」
講題　大本モンゴル本部開設と
これからの展望
講師　吾郷孝志（人類愛善会モンゴルセンター駐在担当）
20日（水）午後7時～9時

第29回企業繁栄祈願祭
24日（日）午後2時半

四代教主十年祭
29日（金）午前10時半

5月

教主生誕祭、三代教主・教主補聖誕祭
4日（水）午前10時半

みろく大祭遥拝祭
5日（木）午前10時半

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭
8日（日）午前10時半

第99回「21世紀、生きがい講座」
講題　日本人の誇りと使命
講師　出口眞人（社会福祉法人「愛善信光会」理事長）
18日（水）午後7時～9時

エスペラント関東合宿
20日（金）～22日（日）

大本基本講座（前半）
28日（土）29日（日）